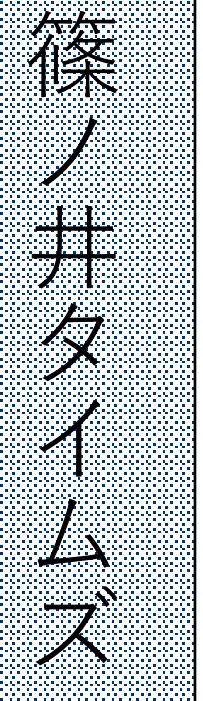


特集：篠ノ井線の歴史年表



篠ノ井線 拡張・整備期（1927～1945）

- 1927年（昭和2年）11月3日：坂北駅新設
- 1933年（昭和8年）7月10日：広丘駅新設

- 1937年（昭和12年）1月31日：麻績一姉捨間に冠着信号場新設

- 1944年（昭和19年）9月1日：南松本駅新設

- 1945年（昭和20年）4月1日：冠着信号場を駅に格上げ、冠着駅新設

※年表はホームページをご覧ください→

よりかかる

塩尻～篠ノ井平均
通過人員
(人／日)

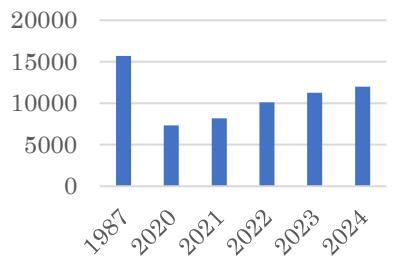


図1

篠ノ井線新聞
編集部

篠ノ井線沿線で乗客
数が減少 地域活性
化の取り組みが急務

近年、長野市と塩尻市を結ぶ篠ノ井線沿線では、通勤・通学での鉄道利用者数が徐々に減少しています。地域の人口減少や、自家用車の利用増加がその背景にあるとみられ、沿線自治体や事業者は活性化策の検討を急いでいます。

篠ノ井線は地域の重要な交通手段であり、通勤・通学だけでなく、観光や買い物などの日常生活にも欠かせません。しかし、沿線の高齢化や若年層の流出に伴い、利用者数は減少傾向にあります。特に朝夕の通勤・通学時間帯の混雑は緩和される一方で、採算面での課題も指摘されていま

一方で、沿線の活性化を目指した取り組みも進んでいます。地元の特産品を活かした観光列車の運行や、駅周辺の商業施設整備、イベント開催など、鉄道利用促進に向けた様々な試みが行われています。

今後は、人口減少や車社会化という構造的な課題を抱えつつも、地域の特色を活かした持続可能な鉄道利用の推進が求められています。篠ノ井線沿線の未来は、地域住民と鉄道事業者の協力にかかると言えそうです。
▲参考:JR東日本[路線別]利用状況
https://www.jreast.co.jp/rosen_avr/pdf/rose_n02.pdf

図1：塩尻～篠ノ井間 平均通過人員の推移 (人／日)

発行：篠ノ井線新聞編集部
制作：篠ノ井乗務区
創刊号 No.1
発行日：2025年9月19日
定価：無料

広告欄

広告無料掲載！

篠ノ井タイムズでは、地域のイベント・お知らせを無料で掲載いたします。

掲載希望・お問い合わせは

[shinorail.contact\[at\]gmail.com](mailto:shinorail.contact[at]gmail.com) [at]を@に変更して下さい

創刊号 No.1

発行：篠ノ井線新聞編集部制作：篠ノ井乗務区